

## 平成27年度 標準的学力調査の結果

学校支援課

平成28年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。  
 （数値は平均正答率）

教科	学年	新潟市	全国	全国との差
社会	小学校5年	63.3%	60.1%	+3.2
	中学校2年	56.5%	57.5%	-1.0
英語	中学校2年	55.2%	54.1%	+1.1

### 【小学校社会・今年度の結果について】

小学校社会は、「教科全体」「基礎」「活用」の全ての区分で全国の平均正答率（以下、全国平均）を上回っている。特に、「活用」区分においては、全国平均を8.8ポイント上回っており、思考力・判断力・表現力が向上してきている。

また、観点別の正答率をみると、「社会事象への関心・意欲・態度」が4.1ポイント、「社会的な思考・判断・表現」が3.6ポイント、「観察・資料活用の技能」が3.4ポイント、「社会的事象についての知識・理解」が2.8ポイント全国平均を上回っている。

領域別の正答率では、「国土の自然などの様子」は4.1ポイント、「農業や水産業」は3.6ポイント全国平均を上回っているものの、「工業生産」は2.2ポイント全国平均を下回っている。特に、「工業生産の費用と、工業製品の関係についての理解」の正答率が全国平均を8.2ポイント下回った。

### ◇内容ごとの状況（小学校社会）

○…目標値を上回った主な問題

●…目標値を下回った主な問題

- 世界の主な大陸と海洋について理解している。
- 日本の位置と領土について理解している。
- 国土の気候の概要について理解している。
- 地形条件から見て特色ある地域の人々の生活について、資料を読み取り、考えることができる。（低い土地の暮らし）
- 地形条件から見て特色ある地域の産業について、資料と読み取って考え、表現することができる。（低い土地の暮らし）

- 地形条件から見て特色ある地域の産業について、資料と読み取って考え、表現することができる。(高い土地の暮らし)
- 気候条件から見て特色ある地域の産業について、資料を読み取ることができる。(あたたかい土地の暮らし)
- 稲作に従事している人々が、農業用の機械を共同購入している主な理由を考えることができる。
- 稲作に従事している人々が、カントリーエレベーターの使用によって便利になる内容を理解している。
- 稲作に従事している人々の食の安全確保のための工夫や、米の輸送・販売の費用に関する資料を読み取ることができる。
- 水産業に従事している人々による資源の保護・育成についての理解をもとに、様々な漁業の特色を比較することができる。
- 日本の主な食料生産物の分布について、資料を読み取って考えることができる。
- 工業生産に従事している人々の、製造の過程に見られる工夫について考えることができる。
- 地形条件から見て特色ある地域の人々の生活について、資料を読み取り、考えることができる。(高い土地の暮らし)
- 気候条件から見て特色ある地域の人々の生活について、資料を読み取り、考えることができる。(あたたかい土地の暮らし)
- 気候条件から見て特色ある地域の人々の生活について、資料を読み取り、考えることができる。(寒い土地の暮らし)
- 栽培漁業についての理解をもとに、資料を読み取ることができる。

### 【今後の対応について】

目標値を下回った内容への改善策として、次のような指導を重視していく。

- ・日本には、山がちな土地や平地など、さまざまな地形の場所があることを押さえさせた上で、地図帳等を活用して、日本の主な川、山脈、平野の名称を調べさせる。また、日本の国土についての理解の定着を図るために、白地図を用いた作業を組み入れていく。
- ・気候などのグラフと家の造りを関連付け、写真資料などを使い、見て分かることを挙げさせ、なぜそのような造りになっているのか、理由を考えさせる。また、考えたことの根拠を示しながら、自分の言葉で説明する力を養っていく。

## 【中学校英語・今年度の結果について】

新潟市全体の状況は、基礎・活用ともに目標値を上回っていて、良好な状況である。領域別では、「書くこと」の領域で目標値をわずかに下回っているものの、「聞くこと」「読むこと」の領域で目標値を2ポイント以上上回っている。観点別では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」で目標値を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」において目標値をわずかに下回った。

問題の内容別に見ると、昨年まで課題であった「リスニング」に改善が見られ、正答率が高くなっている。一方、「語彙の知識・理解」において、語形・語法に関する問題と単語を正しく書く問題の正答率が低かった。「英作文」の問題では、与えられたテーマに沿って3文以上の英作文を書く問題は目標値を上回っているものの、対話の流れに合った英作文の正答率が低かった。語形・語法に関する問題と単語を正しく書く問題の正答率が低かったことと関係があると考えられる。

昨年度と比較して、標準スコアが昨年度より上がっている学校が多かった。標準スコアが3ポイント以上下がった学校は2校しかなかったが、3ポイント以上上がった学校は13校あった。新潟市が進める授業改革を各学校で着実に実践してきた成果である。

### ◆内容ごとの状況（中学校・英語）

○…目標値を上回った主な問題

●…目標値を下回った主な問題

#### 【聞くこと】

- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（動作）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（所属している部・スピーチのテーマ）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（週末の予定・技能統合）

#### 【読むこと】

- 語形・語法を理解することができる。（be famous for～）
- メールの要点を理解し、相手の意向に適切に応じることができる。（概要理解）
- 代名詞の内容を把握することができる。（要点理解）
- 語形・語法を理解することができる。（動名詞・Must I～?に対する答え方～）
- 長文の内容を理解し、その内容に関する対話文を完成させることができる。（概要理解・技能統合）

#### 【書くこと】

- 英文を正しい語順で書くことができる。(不定詞を含んだ文)
- 自分の住んでいる場所について、まとまった内容で説明する文を書きあらわすことができる。(まとまりのある英文)
- 単語を正しく書くことができる。(cloudy leave October)
- 対話の流れに合った英文を書くことができる。(時制に関する疑問文・技能統合)

### 【今後の対応について】

◎意味重視の技能統合の活動を設定し、教師や生徒同士での丁寧な振り返りを行う。

複数の技能の活用が要求される問題における正答率が低かった。文法や技能習得のためには、音声による言語活動を十分に行った後に、発話したり聞き取ったりした内容を書く活動を設定することを今後も継続する。また、聞いたり読んだりしたことについて、自分の気持ちや考えを、話したり書いたりする経験を多く積ませる必要がある。2技能以上の統合的な活動の設定について、習得を目的とする活動と活用する力を育成するための活動の両方を教師が意図的・計画的に設定することが重要である。その際、CAN-DO リスト形式の目標に準拠した形で計画的に活動を取り入れたり、3年間を通じて帯活動などで定期的に育成したりするなどの工夫が必要である。

統合的な活動の後には、表現された内容を教師が丁寧に確認し、正しく書けるようになるまで根気強く継続的な指導を行う。教師による添削や確認の他に、生徒同士の確認の場を設け、自分たちでも確認して正しく書こうと意識させることも効果的である。

◎状況に応じて考え、適切に応答する力を育成する活動を取り入れる。

テーマに合わせて自分で考えて書く英作文の問題は、昨年と比較して大きく伸びている。各学校において、生徒に自分の考え等を英語で書かせる活動に力を入れてきた成果である。一方、相手が言ったことに対して適切に英語で応答する問題は、正答率が低かった。自分で考えて表現することはできるようになったが、相手の意向を理解して即座に適切な応答することには、まだ課題がある。

特に、「状況に応じる」ためには、コミュニケーションが行われている文脈を生徒に意識させたい。会話の流れやテキストの概要・要点を理解させる必要がある。

また、授業の中に英語のコミュニケーション活動を多く取り入れ、特にインタラクションの活動に重点を置くようにする。そして、コミュニケーションがどのように展開されているかを考えさせる。その際、ALT を活用し、ALT と教師のインタラクションを数多く取り入れ、生徒の参考になるようにする。また、生徒同士のインタラクションだけでなく、教師と ALT が手分けをして生徒とインタラ

クシヨンを積極的に行うことも効果的である。

### 【社会（中学校2年）・今年度の結果について】

中学校社会では、「基礎」が全国平均から－1.4ポイント下回り、「活用」は、0.8ポイント全国平均を上回っている。領域別に見ると、「世界と比べた日本の地域的特色」（－1.8）、「近代の日本」（－2.6）の2領域が全国平均を下回り、「日本の地域構成」（＋0.5）、「日本の諸地域」（＋2.2）の2領域が上回っている。

今回の調査で、思考力・表現力は身に付いてきているが、「基礎」の定着が不十分である状況が明らかになった。思考力や表現力を高める授業改善への取組を継続しながら、学習内容を確実に定着させるため、日々の授業での課題を明らかにし、指導を工夫・改善することが必要である。

#### ◆内容ごとの状況（中学校・理科）

○…目標値を上回った主な問題

●…目標値を下回った主な問題

- 日本の主な発電所の分布について、資料をもとに判断することができる。
- 沖縄県の土地利用の資料を読み取ることができる。
- 九州地方で生産されるようになったICについて理解している。
- 江戸時代の主な大名の配置について、資料をもとに把握することができる。
- 杉田玄白などが翻訳した解体新書について理解している。
- 鳥取砂丘とサハラ砂漠の相違点について、複数の資料をもとに考察することができる。
- 江戸時代の生活の様子について、当時の身分に関する複数の資料をもとに判断することができる。
- 日本と同経度の範囲にある国を把握している。
- ルターやカルバンによる宗教革命について理解している。
- 鉄砲の伝来に関する歴史的事項について判断することができる。
- 安土桃山時代の文化の特色を理解している。
- 徳川吉宗による享保の改革について理解している。

### 【今後の対応について】

#### （1）全般的な取組として

- ・資料から社会的事象を読み取り、判断したり、自分の考えをまとめたりする授業改革に継続して取り組む。
- ・一時間の授業において獲得すべき学習内容を明らかにし、学習のまとめを

丁寧に行う。

- ・単元の終末には、「振り返り」を位置付け、「何が分かったのか」の自覚を促す。
- ・基礎・基本の確認問題や確認テストを授業終盤や小単元の終了時に行い、未定着の生徒を把握して個別指導を行う。

(2) 出題内容にかかわって

- ・「宗教革命」の学習では、宗教改革は、西ヨーロッパで起こったキリスト教の新しい動きであること、キリスト教はカトリックとプロテスタントに分かれお互いに対抗したこと、カトリック内部でも改革が行われ、その中心となったのがイエズス会であること等因果関係を理解させる。
- ・「日本の地域構成」の学習では、日本の東端、西端、南端、北端を地図上で確認し、経度・緯度を把握させる。また、同じ経度・緯度にある世界の国々を地図で確認し、どこで何が分布しているのかについて理解させる。